

東日本大震災 岩手県社会福祉協議会の記録

「あの日から」

「私たちは被災地に寄り添えたのか」

支援内容を克明に記録

県社協では先ごろ「東日本大震災岩手県社会福祉協議会の記録『あの日から』」私たちは被災地に寄り添えたのか」(A4判、142頁)を発刊しました。

震災直後からこれまで行ってきた支援内容を「東日本大震災の被害状況」県内災害ボランティアセンターの設置「県社協への様々な支援、連



携「県内職能団体の取組み」など24項目に分けて紹介。

大混乱の中で自分たちがどのように活動したのかを文章、データ、資料、写真、寄稿、アンケートなどでまとめていきます。この2年間の動きを克明にまとめた記録は、教訓に学び、さらなる復興への決意を示すものです。

支援体験を活かす

うち、「職員アンケート東日本大震災を経験して」は、試行錯誤して取組んだ支援体験を後世の県社協職員に伝え、併せて発災時の他県社協の参考に資するためにまとめました。

アンケートは①災害時対応で一番苦労したこと②災害対応業務で一番大事なこと③後世の職員に伝えたいことを設問とし、職員が回答する形式でまとめました。

また、発災直後から問い合わせが相次いだ対応状況を「震災対応への他県社協からの質問と回答」としてまとめました。その内容は▽災害発生(被害)情報の入手▽県社協災害本部の設置▽職員の役割分担及び災害対策本部との関係▽当初の県からの要請▽全社協及び支援Pとの連絡と支援▽主な通信手段▽被災地社協からの要望▽マニュアルどおりできたこと・できなかったこと▽災害時の相互支援に関する協定▽平常時に準備しておくべきことなど、多岐にわたっています。

敬意と感謝とを

巻頭には大槌町社協徳田信也会長が「東日本大震災に遭遇して」を寄稿。「本格的な再建はまだですが、職員一同力を合わせ励ましあい、使命である地域福祉の推進に力を尽くしたい」、また、県社協桑島博会長は発刊のあいさつ「敬意と感謝とを」で「ご支援下さった多くの方々に対して改めて感謝の気持ちをお伝えし、大災害を経験して得た教訓、そして学び等を後世に残したい」としています。

記録は県社協記録編集チーム(各部署の職員8名)が中心に編集し、表題「あの日から」は書道家の金澤翔子さんが揮毫。発刊した2,600部は関係機関・団体にお届けしています。

主な内容

- 東日本大震災の被害状況
- 岩手県内災害ボランティアセンターの活動
- 岩手県社協への様々な支援・連携
- 東日本大震災における生活福祉資金貸付の状況
- 岩手県民生委員児童委員協議会の取り組み
- 生活支援相談員の取り組み
- 岩手県里親会の取り組み
- 岩手県社協市町村社協部会の取り組み
- 社会福祉法人経営者協議会の取り組み
- 高齢者福祉協議会の取り組み
- 保育協議会の取り組み
- 障がい者福祉協議会及び岩手県知的障害者福祉協会合同支援プロジェクトの取り組み
- 児童館部会の取り組み
- 児童福祉施設協議会の取り組み
- 岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会の取り組み
- 県内職能団体による支援
- 岩手県共同募金会の取り組み
- ふれあいランド岩手の活動(避難所運営・ボランティアバスの添乗)
- 岩手県社協広報紙パートナーから
- 寄付・義援金の紹介
- 住民の声、ボランティアの声
- 職員アンケート「東日本大震災を経験して」
- 岩手県社協に対する震災対応への他県社協からの質問と回答
- 東日本大震災津波支援にかかわる座談会



(株)啓愛会 孝仁病院

盛岡水産(株)

盛岡青果商業協同組合

杜陵信用組合

(医)正康会 平舘クリニック

(社)松誠会 滝沢中央病院

いわて生活協同組合

(株)志百家

(社)岩手郡医師会

(社)日新堂 八角病院

岩手県農業協同組合中央会

みちのくキャンティーン(株)

岩手トラクターミナル(株)

岩手繊維(株)

岩手中部地区

(株)中央コーポレーション

北上済生会病院

胆江地区

(医)創生会胆江病院

(社)ヨシザワ病院

(株)ツクバ

両磐地区

(株)若手日新聞社

天台宗 毛越寺

気仙地区

(医)勝久会

さいとう製菓(株)

(株)マイヤ

(株)東海新報社

(株)明和土木

橋爪商事(株)

大船渡市農業協同組合

東北汽船港運(株)

株)佐武建設

宮古地区

宮古ボード工業(株)

金沢内科医院(宮古市磯鶏)

二戸地区

(株)菅文